

# はじめに

畜産は牛乳、肉、卵など日常の食生活を豊かにするおいしさを与えてくれるとともに、飼料生産や家畜排せつ物の堆肥化を通じた地域内資源循環といった重要な役割・機能も果たしています。

本県の畜産は、琵琶湖の恵みを受けた豊かな自然環境と、都市近郊という地理的条件を活かした産業として発展してきました。

とりわけ、肉用牛生産は、多頭飼育が進展し、我が国トップクラスの飼育規模にまで成長し、主要産業の一つとなっています。特に、日本三大ブランド和牛の中でも最古の歴史をもつ「近江牛」は、そのおいしさが全国的に高い評価を受けています。

近年の畜産をとりまく現状は、飼料価格の高騰を初めとした生産費の上昇など目の前の課題に加え、TPP交渉の結果如何によっては、非常に大きな影響を受けるおそれもあり、将来的な展望は不透明です。

また、飼料については、耕畜連携による飼料自給率の向上を目指した飼料用米の活用を推進しているところですが、国の米政策を踏まえて考える必要が生じています。

一方、明るい方向として、6次産業化による経営の多角化や輸出による販路拡大などが、産業としての発展を目指して進みつつある状況です。

家畜衛生の分野では、グローバルな人や物の移動による口蹄疫などの悪性伝染病の国内侵入リスクはきわめて高く、生産農場における飼養衛生管理基準の遵守がきわめて重要になっています。

このような状況の中で、県としましては、様々な外的要因の変化に柔軟に対応できるよう、情報の収集、発信を基本として、関係部局が連携し、多様化する消費者ニーズに応える畜産物づくりを推進してまいります。

畜産の現状と動向をとりまとめた本冊子が、本県畜産に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

平成26年3月

滋賀県農政水産部畜産課長  
内藤 慎吾